

3日目を迎えた「第20回 I T S世界会議 東京2013」に係る速報レポートです。3日目は、2日目以上の方がブースへ来場いただき、昨日に引き続き、当社のモバイルマッピングシステム(以下、MMS)にて取得した高精度三次元地図の様々な分野での利用シーンや準天頂衛星に係る技術をご紹介するとともに、建設コンサルタント業界の来場者の方に対しては、MMS車輛の実践カリキュラム付き導入提案にご興味を頂くこともありました。

準天頂衛星「みちびき」に係るソフトウェア「QZS Prove Tool」に対しては、衛星自体の補完(G P S互換信号)と、補強(日本独自の精度UP信号)の両新機能をご理解頂く好機と成っていますが、4機体制が整いITS業界にも大きく貢献できる2018年4月への政府スケジュールが広く普及しているとは言い難い現状とも言えました。

下記展示パネル写真にもありますようにMMSを利用した高精度リアル3 Dデータは「自動走行・運転支援」での利用をはじめ、「カーナビ地図事業」「ドライブシュミレーション」などに既にご利用いただいている事例紹介も各企業のご担当者様との個別面談にて行うことで、新たな商談機の掘り起こしを行いました。



【当社展示ブース全体】



【MMSを利用した3Dデータに係る展示パネル】



【準天頂衛星の利用実証ツールに係る展示パネル】

【免責とお断り・注意事項】

本通信及び弊社ホームページの記載事項は、株主・投資家の皆様お客様に対し、迅速な情報公開・提供を目的とし、投資勧誘を目的としているものではありません。掲載内容被った損害については、当社は一切の責任を負いかねます。